

付記

観光研究

ここでは、わが国の観光の発展に寄与する学術面での「観光研究の動き」を概観する。

(1) 日本国内の観光関連学会

データベース「学会名鑑」(日本学術会議、公益財団法人日本学術協力財団、国立研究開発法人科学技術振興機構)によると、国内主要学術団体(2006件)のうち、学会名称に「観光」「ツーリズム」「旅行」「リゾート」「余暇」「レジャー」「レクリエーション」「ホスピタリティ」のいずれかの語を含む学会(以下「国内の観光関連学会」)は、合計11団体となっている(表 付記-1)。

また、「学会名鑑」に掲載されていないものの、観光関連の学会活動を行っている団体としては、日本旅行医学会(02年)、日本環太平洋観光学会(07年)、ものがたり観光行動学会(09年)、国際観光医療学会(10年)、コンテンツツーリズム学会(11年)、長期滞在型・ロングステイ観光学会(16年)などがある。日本環太平洋観光学会は、以前は日豪ツーリズム学会という名称であったが、研究分野を環太平洋地域へ拡大するため、16年8月に名称変更した。

①全国大会

16年度に開催された各学会の全国大会では、インバウンドがテーマとして多くとりあげられていた。

日本観光学会では「インバウンドの高まりと観光地・観光産業の受け入れ体勢」、日本観光ホスピタリティ教育学会では「観光立国ニッポン 訪日旅客4,000万人&オリパラ2020～観光ホスピタリティ教育は何をすべきか～」、観光学術学会では「急増するインバウンドを観光情報で迎え撃つ」というテーマのもと、研究発表やシンポジウムなどが開催された。

その他のテーマとしては、「若手研究者からみた観光学」(観光学術学会)、「祝祭のツーリズム」(日本国際観光学会)、「日本の美意識は観光資源」(日本観光研究学会)、「余暇・ツーリズム活動とリスク対処」(余暇ツーリズム学会)などが見られた。

②機関誌・学会誌

機関誌・学会誌は、11団体が合計12誌発行している(日本ホスピタリティ・マネジメント学会は2誌発行。うち1誌は英文)。特にテーマを設けずに査読論文を掲載する学会誌も多いが、中には、「観光情報をいかに生み、届けるか:地域における発信主体の視点から」(「観光研究」Vol.28 No.1)や「インバウンドのこれから-地方分散化の視点から-

(「観光研究」Vol.28 No.2)、「観光情報学とスポーツ」(「観光と情報」)や、「ツーリズム・モビリティ」(「観光学評論」)のように、特集を設定する学会誌もみられる。

「観光研究」は国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)が運営する科学技術情報発信・流通総合システム(J-STAGE)で全文公開されている。

(2) 大学・大学院

「観光」「ツーリズム」「ホスピタリティ」のいずれかの語を含む学部、学科を有する大学は44校、大学院は10校存在する。観光関連の学部・学科を新設する動きは特に06年度から活発化しているが、16年度の新設はなかった(表 付記-2)。

その他、特筆すべき動きとしては、和歌山大学観光学部が、国連世界観光機関(UNWTO)の関連組織であるUNWTO Themis Foundationが実施する観光教育認証「UNWTO. TedQual (Tourism Education Quality)」を日本で初めて取得した(17年4月)。TedQual認証は、観光学における教育、研究、訓練プログラムの質の向上を目的としたもので、観光教育、研究のグローバルネットワーク(交換プログラム、共同研究、国際学会等)への参加やUNWTO Themis Foundationとの共同プログラム実施が可能となる。

(3) 科学研究費助成事業における観光学の扱い

科学研究費助成事業(以下、科研費)の観光学における採択状況と配分状況は、表 付記-3の通りである。16年度は206.5件の応募があり、うち58.5件が新規採択された。配分額の合計は77,650千円で、1課題あたりの平均配分額は1,327千円となっている。いずれも15年度と比較して微増している。

研究機関別の累計採択件数をみると、和歌山大学が9.5件と最も多く、次いで北海道大学(8.0件)、首都大学東京(6.5件)と続く(表 付記-4)。

16年度は46大学と2法人の研究課題が新規採択されている。最も多いのは和歌山大学(5件)で、次いで琉球大学(3件)、北海道大学(3件)、立命館大学(3件)となっている(表 付記-5)。

新規採択研究課題の内容としては、観光地の防災やリスクマネジメント、観光復興に関する研究が特に多くみられる。
(福永香織)

表 付記-1 国内の観光関連学会の概要

(設立年順)

	学会名・会員数	会長、本部/事務局、支部	活動内容	学会誌(機関誌)、大会論文集
1	<p>日本観光学会</p> <p>Japan Academic Society of Tourism (JAST)</p> <p>○正会員 205名 ○準会員 13名 (2017年3月現在)</p>	<p>【会長】 神頭広好(愛知大学)</p> <p>【本部/事務局】 青山学院大学社会情報学部 長橋研究室内</p> <p>【支部】 東北・北海道支部、関東支部、中部支部、関西・中四国支部、九州・沖縄支部</p>	<p>○全国大会の開催(年1回、基調報告、研究発表、総会、シンポジウム) (2016年度第109回全国大会:共通論題「インバウンドの高まりと観光地・観光産業の受け入れ体勢」) (2016年度第110回全国大会:共通論題「地域経営における観光の役割」) ※2017年度より年1回</p> <p>○海外の大学・研究機関との国際学術交流(ジョイント・シンポジウム)</p> <p>○支部会、支部大会の開催</p> <p>○機関誌の発行(『日本観光学会誌』、年1回) 創刊号から第50号までの「日本観光学会誌CD」が完成(2014.7)</p> <p>○学会賞の授与</p> <p>○提言(2004年に「真の観光立国へ25の提言」を国土交通省へ提出)</p>	<p>【機関誌】 『日本観光学会誌』 (1996年～、年1回) (前身『日本観光学会研究報告』、1961～1995年) (2016年度:第57号 論文2本、研究ノート6本、書評2本)</p> <p>【大会論文集】 『研究発表要旨集』 (年1回)</p>
2	<p>日本レジャー・レクリエーション学会</p> <p>Japan Society of Leisure and Recreation Studies (JSJRS)</p> <p>○正会員 301名 ○購読会員 16団体 (2017年2月現在)</p>	<p>【会長】 鈴木秀雄(関東学院大学)</p> <p>【本部/事務局】 早稲田大学 前橋明研究室内</p> <p>【支部】 なし</p>	<p>○学会大会(年1回、講演、基調講演、シンポジウム、研究発表、ワークショップ、表彰) 2016年度第46回学会大会テーマ:子どものレクリエーション</p> <p>○研究会・講演会等の開催</p> <p>○学会誌の発行(『レジャー・レクリエーション研究』)</p> <p>○学会ニュースの発行(年2～3回)</p> <p>○学会賞の授与(日本レジャー・レクリエーション学会賞(学会賞、研究奨励賞、支援実践奨励賞、貢献賞)、2007年～)</p> <p>○研究の助成(研究助成金制度、2011年～)</p> <p>○内外の諸団体との連絡と情報の交換(世界レジャー機関、全米レクリエーション公園協会との情報交換、ホームページのリンク等)</p>	<p>【学会誌】 『レジャー・レクリエーション研究』 (1992年～、年2回) (前身『レクリエーション研究』1965～1991年) (2016年度:第79号 原著2本、評論1本/第80号 第46回学会発表論文集)</p> <p>【大会論文集】 なし(学会誌に発表要旨を掲載)</p>
3	<p>余暇ツーリズム学会</p> <p>The Association for Leisure and Tourism Studies</p> <p>○研究者 154名 ○実務家 82名 ○大学院生 28名 ○賛助会員 7名 (2017年4月現在)</p>	<p>【会長】 長谷川恵一(早稲田大学)</p> <p>【本部/事務局】 早稲田大学商学術院 長谷川恵一研究室内</p> <p>【支部】 関東支部、九州支部</p>	<p>○学会大会の開催(年1回、エクスカーション、統一論題発表、基調講演、研究発表等) 2016年度全国大会テーマ:「余暇・ツーリズム活動とリスク対処」</p> <p>○支部大会の開催(年1～2回、研究発表等)</p> <p>○研究部会の開催(ライフスタイル研究部会、観光地域ストーリー研究部会、ヘルス・スポーツツーリズム研究部会、飲料サービス研究部会、レジャー・スタディーズ研究部会、エンタテインメント・ツーリズム研究部会、プライダル研究部会、ツーリズム心理研究部会)</p> <p>○学会誌の発行(『余暇ツーリズム学会誌』)</p> <p>○ニュースレターの発行(年数回)</p> <p>○図書の編集(『余暇学を学ぶ人のために』『余暇事業論一多様化する余暇事業の未来予測』等、合計4冊)</p> <p>○受託研究</p> <p>○会員の研究活動支援</p> <p>○学会賞の授与(2016年～)</p>	<p>【学会誌】 『余暇ツーリズム学会誌』 (前身『余暇学研究』1998年～2013年) (2014年3月～、年1回) (2016年度:第4号 論文6本、研究ノート2本)</p> <p>【大会論文集】 『余暇ツーリズム学会大会研究報告予稿集』 (2013年～、年1回)</p>
4	<p>日本観光研究学会</p> <p>Japan Institute of Tourism Research (JITR)</p> <p>○正会員 1,000名 ○準会員 14名 ○名誉会員 8名 ○賛助会員 3団体 ○特別会員 8団体 (2017年4月現在)</p>	<p>【会長】 吉兼秀夫(阪南大学)</p> <p>【本部/事務局】 豊島区西池袋4-16-19 コンフォルト池袋106</p> <p>【支部】 関西支部(2003年7月設立) 九州・韓国南部支部(2007年4月設立) 東北支部(2015年3月設立)</p>	<p>○全国大会の開催(年1回、講演会、シンポジウム、研究発表) (2016年度第31回全国大会:シンポジウム「日本の美意識は観光資源」)</p> <p>○総会の開催(年1回、講演、ポスターセッション、学会賞表彰、シンポジウム)</p> <p>○研究分科会、研究懇話会(年2回、1月と7月)の開催</p> <p>○支部・地域懇話会の開催</p> <p>○機関誌の発行(『観光研究』)</p> <p>○会報の発行(『学会報』、年4回)</p> <p>○メールニュースの配信</p> <p>○特別研究の助成</p> <p>○学会賞の授与(論文奨励賞、観光著作賞、2007年度～)</p> <p>○図書の監修(『観光学全集』全10巻予定)</p> <p>○観光研究に関する外国諸団体との交流 等</p>	<p>【機関誌】 『観光研究』 (1987年～、年2回) (2016年度:Vol.28 No.1 特集:観光情報にいかにも生み、届けるか:地域における発信主体の視点から/論文5本 Vol.28 No.2 特集:インバウンドのこれからー地方分散化の視点からー/論文6本)</p> <p>【大会論文集】 『全国大会学術論文集』 (1986年～、年1回)</p>
5	<p>日本国際観光学会</p> <p>Japan Foundation for International Tourism (JAFIT)</p> <p>○正会員 385名 ○学生会員 55名 ○名誉会員 2人 ○賛助会員 3団体 (2017年4月現在)</p>	<p>【会長】 島川崇(東洋大学)</p> <p>【本部/事務局】 千代田区三崎町T・Yビル5階</p> <p>【支部】 なし</p>	<p>○全国大会の開催(年1回、基調講演、研究発表) (2016年度第20回全国大会:祝祭のツーリズム)</p> <p>○総会、例会の開催(研究発表、講演、年5回)</p> <p>○論文集の発行(『日本国際観光学会論文集』)</p> <p>○産学協同セミナー「ツーリズム・フォーラム」の開催(年6回、2003年～)</p> <p>○会報の発行(年4回)</p> <p>○国内外でのシンポジウム開催</p> <p>○国際観光研修旅行の実施</p> <p>○教科書・学術書の出版(『新版 旅行業入門』『観光学大事典』等)</p> <p>○懸賞論文の実施(太田記念国際観光懸賞論文)</p> <p>○国際観光に関する学術調査および研究</p> <p>○内外の企業、団体、個人よりの委託研究</p> <p>○関連学会、協会との連絡および交流</p>	<p>【論文集】 『日本国際観光学会論文集』 (1993年～、年1回) (2016年度:第24号 論文17本、研究ノート7本)</p> <p>【全国大会梗概集】 (2001年～、年1回)</p>
6	<p>日本ホスピタリティ・マネジメント学会</p> <p>Japan Academic Society of Hospitality Management (JASH)</p> <p>○正会員 258名 ○学生会員 7名 ○名誉会員 6名 (2016年2月現在)</p>	<p>【会長】 高橋武秀(〔一社〕日本自動車部品工業会)</p> <p>【本部/事務局】 日本大学 山本壽夫研究室内</p> <p>【支部】 関東支部、関西支部、九州支部</p>	<p>○全国大会の開催(年1回、講演、シンポジウム、研究発表、年次総会) (2016年度第25回全国大会テーマ:次世代ヘルスケアとホスピタリティ)</p> <p>○研究専門部会の開催(適宜)</p> <p>○研究発表会(各支部それぞれ年2回)</p> <p>○学会誌の発行(『HOSPITALITY』『International Journal of Japan Academic Society of Hospitality Management』)</p> <p>○図書・報告等の発行</p> <p>○学会賞の授与(日本ホスピタリティ・マネジメント学会大賞等)</p> <p>○内外の学会、その他関連団体と連絡</p>	<p>【学会誌】 『HOSPITALITY』 (1993年～2012年度:年1回、2013年～2015年度:年2回、2016年度:年1回) (2016年度:第27号 論文13本)</p> <p>【大会論文集】 『International Journal of Japan Academic Society of Hospitality Management』 (2012年～、年1回(2013年は年2本)) (2016年度:Vol.4 No.1 論文4本)</p> <p>【大会論文集】 なし</p>

付記

観光研究

	学会名・会員数	会長、本部/事務局、支部	活動内容	学会誌(機関誌)、大会論文集
7	総合観光学会 The Japan Society for Interdisciplinary Tourism Studies ○正会員 195名 ○学生会員 43名 ○法人会員 5団体 (2016年2月現在)	【会長】 山下晋司(帝京平成大学) 【本部/事務局】 日本大学 商学部内 【支部】 なし	○全国学術研究大会の開催(年2回、研究発表、シンポジウム、特別講演、自由論題報告、パネルディスカッション、視察研究) (2016年度第32回学術研究大会、第31回学術研究大会) ○学会誌の発行(『総合観光研究』) ○会報の発行 ○海外の研究者との交流 ○研究成果を著書として発刊 ○観光関連の文献・データの収集	【学会誌】 『総合観光研究』 (2002年～、年1回) (2013年度:第12号 論文5本、研究ノート2本) 【大会論文集】 なし
8	観光まちづくり学会 The Society of Tourism and Community Design ○正会員 113名(個人会員111名、法人会員2団体) ○名誉会員 5名 (2015年11月末現在)	【会長】 長谷川明(八戸工業大学) 【本部】 八戸工業大学 長谷川研究室 【事務局】 (一社)岩手県土木技術センター内 【支部】 北海道支部(2008年～)	○役員会、総会の開催 ○研究発表会の開催(年1回) ○講演会、講習会の開催 ○調査研究、視察会の開催 ○学会誌の発行(『観光まちづくり学会誌』) ○学会賞の授与(学術論文賞・優秀発表賞)	【学会誌】 『観光まちづくり学会誌』 (2003年～、年1回) (2015年度:第13号 論文3本) 【大会論文集】 なし(学会誌に発表要旨を掲載)
9	日本観光ホスピタリティ教育学会 The Japanese Society of Tourism and Hospitality Educators (JSTHE) ○正会員 154名 ○準会員 10名 ○特別会員 1団体 ○名誉会員 3名 (2017年2月現在)	【会長】 鈴木 勝(共栄大学) 【本部/事務局】 杏林大学 外国語学部内 【支部】 なし	○全国大会の開催(年1回、講演、シンポジウム、研究発表・教育実践報告、ワークショップ) (2016年度第16回全国大会テーマ:観光立国ニッポン 訪日旅客4,000万人&オリパラ2020～観光ホスピタリティ教育は何をすべきか～) ○シンポジウムの開催(年1回) ○研究会の開催(年1～4回) ○機関誌の発行(『観光ホスピタリティ教育』) ○学術論文集の発行(『全国大会論文集』) ○学会報の発行(年3回程度) ○外国語団体との交流 ○研究の奨励と研究業績の表彰	【機関誌】 『観光ホスピタリティ教育』 (2006年～、年1回) (2016年度:第10号 論文2本、教育実践報告1本、書評2本、全国大会報告、総会報告) 【大会論文集】 『全国大会論文集』 (年1回)
10	観光学術学会 Japan Society for Tourism Studies ○正会員(一般) 281名 ○正会員(院生) 62名 ○準会員 1名 (2017年3月現在)	【会長】 橋本和也(京都文教大学) 【本部/事務局】 (有)地域・研究アシスト事務所内(大阪府) 【支部】 なし	○全国大会の開催(年1回、特別講演、シンポジウム、総会、一般研究発表、学生ポスターセッション) (2016年度第5回全国大会テーマ:フォーラム「若手研究者からみた観光学」、シンポジウム「ツーリズム・モビリティ」) ○研究集会の開催(2016年度第4回研究集会テーマ:ダークツーリズム研究の深化へ向けて) ○学会誌の発行(『観光学評論』) ○学会賞の授与(著作賞、論文賞、教育・啓蒙著作賞など8種、2013年度～) ○図書等の刊行 ○観光学の研究調査 ○国内外の学術団体、学会との連絡・交流	【学会誌】 『観光学評論』 (2012年度～、年1回/2013年度～、年2回) (2016年度:第5巻1号 原著論文2本、萌芽論文1本、特集論文(「ツーリズム・モビリティ」)4本、翻訳1本/第4巻2号 原著論文3本、展望論文1本、特集論文4本、書評1本) 【大会論文集】 『全国大会発表要旨集』 (2012年度～、年1回)
11	観光情報学会 Society for Tourism Informatics ○正会員 129名 ○賛助会員 46名 ○団体会員 7団体 (2017年2月現在)	【会長】 大数多可志(NPO法人日本海国際交流センター 主任研究員) 【本部/事務局】 北海道大学大学院情報科学研究科内	○全国大会の開催(年1回、基調講演、パネルディスカッション、学術講演セッション、総会) (2016年度第13回全国大会:「急増するインバウンドを観光情報で迎え撃つ」) ○研究発表会の開催(年2回、研究発表、エクスカーション) ○観光情報学研究会の開催(いわて、オホーツク圏、かがのど、さっぽろ、たいせつかみイ、ちゅうしこく、はこだて、東アジア、とうかい) ○学会誌の発行(『観光と情報』) ○賞の授与(大会優秀賞、大会奨励賞、研究発表会優秀賞、研究発表会奨励賞、功労賞) ○メールニュースの配信 ○情報提供事業、コンサルティング、活動支援 等	【学会誌】 『観光と情報』 (2005年度～、年1回) (2016年度:第12号 学術研究論文4本、特集記事(観光情報学とスポーツ)4本) 【大会論文集】 『全国大会講演予稿集』 (2004年度～、年1回) 『研究発表会講演論文集』 (2009年度～、年2回)

資料:データベース「学会名鑑」、各学会ホームページ、各学会への聞き取り調査から(公財)日本交通公社作成(2017年6月現在)
注:データベース「学会名鑑」(日本学術会議、公益財団法人日本学術協力財団、国立研究開発法人科学技術振興機構、http://gakukai.jst.go.jp/gakkai/)に収録されている国内の主要学術団体(2,006件)のうち、学会名称に「観光」「ツーリズム」「旅行」「リゾート」「余暇」「レジャー」「レクリエーション」「ホスピタリティ」のいずれかの語が含まれる学会を「国内の観光関連学会」として抽出した。

表付記-2 日本の観光関連大学・大学院の数

	大学	学部	学科	大学院
2016年度	44	16	43	10
2015年度	44	16	44	10
2014年度	44	16	42	10

※大学の場合は学部・学科名に、大学院の場合は研究科・専攻名に「観光」「ツーリズム」「ホスピタリティ」という言葉を含むもののみをカウント。
資料:文部科学省「年度別開設大学等一覧」、各大学サイトより(公財)日本交通公社作成

表付記-3 科研費における「観光学」の新規採択状況と予算配分状況

	応募件数	採択件数(新規)	配分額(直接経費)(千円)	1課題あたりの平均配分額(千円)
2016年度	206.5	58.5	77,650	1,327
2015年度	203	57.5	72,800	1,266
2014年度	223	68	102,200	1,503

※科研費全体の直接経費予算額は1,776億円
※平成28年度科学研究費のうち、「新学術領域研究(研究領域提案型)」「学術研究支援基盤形成」、「特設分野研究」及び「奨励研究」を除く研究課題(新規採択分)と「国際共同研究加速基金(国際活動支援班)」の研究課題(新規採択分)について分類。
※「若手研究(B)」の新規採択課題で2つの細目を選択したものについては、件数、配分額を併せて集計。
資料:文部科学省「平成28年度科学研究費助成事業の配分について」より(公財)日本交通公社作成

表付記-4 科研費における「観光学」の採択数上位10機関

順位	機関名	新規採択累計数	応募件数累計数	累計配分額(千円)
1	和歌山大学	9.5	35.0	7,900
2	北海道大学	8.0	26.5	14,800
3	首都大学東京	6.5	11.0	14,200
4	立教大学	6.0	11.0	17,500
5	琉球大学	5.5	12.0	5,900
6	立命館大学	4.5	9.0	5,250
7	筑波大学	4.0	9.5	15,700
7	九州大学	4.0	10.0	3,400
7	奈良県立大学	4.0	8.5	5,300
7	東海大学	4.0	21.0	3,600

※「若手研究(B)」の新規採択課題で2つの細目を選択したものについては、件数、配分額を併せて集計。
※平成26～28年度の3年間の件数を算出。
資料:文部科学省「平成28年度科学研究費助成事業の配分について」より(公財)日本交通公社作成

付記

観光研究

表 付記-5 科研費における「観光学」の新規採択研究課題（2016年度）

研究課題	研究種目	研究機関
観光ビッグデータおよびSNSデータを利用した観光情報集積・提供基盤の研究開発	基盤研究 (B)	長崎大学
自然災害に対する観光地の「災害弾力性」に関する評価指標の開発	基盤研究 (B)	立教大学
世界遺産と防災：アジアにおけるヘリテージツーリズムの持続的発展のために	基盤研究 (B)	帝京平成大学
ビッグデータを活用した観光地圏域のターゲット層別抽出と観光圏政策の評価・提言	基盤研究 (B)	首都大学東京
ツーリズムにおける「スピリチュアル・マーケット」の展開の比較研究	基盤研究 (B)	筑波大学
日仏文化政策と市民との関係を踏まえた持続可能な観光プログラムに関する研究	基盤研究 (C)	(公財) 学習ソフトウェア情報研究センター
戦後松江における観光行政の展開	基盤研究 (C)	島根県立大学短期大学部
消費者の親和性が旅行先選択に与える役割と影響 —口コミサイトの分析を通して—	基盤研究 (C)	大阪成蹊短期大学
観光資源として活かすための八重山諸島群の伝統染織物についての研究	基盤研究 (C)	沖縄国際大学
観光地域づくり組織を支えるガバナンスとファイナンス：国際比較を通じて	基盤研究 (C)	立命館アジア太平洋大学
食と農をつなぐ都市農村協働プロセスに関する研究	基盤研究 (C)	長崎国際大学
農業を維持するためのツーリズムの条件に関する研究	基盤研究 (C)	久留米工業大学
観光産業におけるサービスビジネスとしての「おもてなし」の経営分析	基盤研究 (C)	九州産業大学
越境ECによる観光土産のリピーター購買の研究 —中国人旅行者を対象に—	基盤研究 (C)	桃山学院大学
空間のアーキテクチャと規制に関する疫学・地理学・社会学による融合型研究	基盤研究 (C)	四天王寺大学
観光資源を活用したパーキンソン病の人のリハビリテーションへの応用	基盤研究 (C)	佛教大学
クリエイティブツーリズムの定着と創造都市連携の相互連環的發展に関する研究	基盤研究 (C)	同志社大学
文化と産業が融合する産業観光モデル構築に関する研究	基盤研究 (C)	名古屋学院大学
訪日観光客の災害文化に基づく観光災害マネジメントの構築	基盤研究 (C)	金城学院大学
観光地における防災訓練を中核とした地域防災計画策定手法の開発	基盤研究 (C)	愛知工業大学
特別支援学校の修学旅行に必要な配慮や支援に関する研究	基盤研究 (C)	岐阜聖徳学園大学
ツーリズムによる災害復興に関する観光社会学的研究 —居住者の生活の立場から—	基盤研究 (C)	桐蔭横浜大学
リビングヘリテージの多様性の比較研究	基盤研究 (C)	早稲田大学
カジノを駆動部分としたIR(Integrated Resort:統合型リゾート)	基盤研究 (C)	東洋大学
ロンドンオリンピックのレガシー戦略とクリエイティブシティ創出に関する観光学的研究	基盤研究 (C)	東海大学
実践的経営概念を組み込んだ自然地域のデスティネーション管理方策の解明	基盤研究 (C)	東海大学
「見どころ」の分析から探る、観光資源としてのオープンガーデンの持続可能性	基盤研究 (C)	江戸川大学
「ブライダルツーリズム」の開発と展開可能性	基盤研究 (C)	千葉商科大学
海岸観光地の地震津波発生時における対観光者リスクマネジメントに関する研究	基盤研究 (C)	文教大学
日本型メディア・ツーリズムの実証的研究と理論構築	基盤研究 (C)	獨協大学
震災に強い観光振興のあり方に関する研究	基盤研究 (C)	石巻専修大学
外国人観光客の免税店利用に係る研究 —地域間・店舗間格差解消に向けたモデル分析—	基盤研究 (C)	札幌国際大学
土産品を確立・存続させる要因と観光振興の経済効果	基盤研究 (C)	奈良県立大学
インドネシア後発地域における観光ファミリービジネスのスタートアップ課題と支援戦略	基盤研究 (C)	琉球大学
島嶼観光地域に適した津波減災計画に関する実践的研究	基盤研究 (C)	琉球大学
産業連関法による沖縄観光の内包型資源・環境負荷およびフットプリントの推計	基盤研究 (C)	琉球大学
小規模島嶼におけるジオツーリズムと地域イノベーションに関する実証的研究	基盤研究 (C)	長崎大学
空間統計学による観光市場の地域特性の把握と地理情報の高度化に関する研究	基盤研究 (C)	和歌山大学
新たな人口移動を契機とする農山村地域の経済およびコミュニティの変容に関する研究	基盤研究 (C)	和歌山大学
中世の紀伊半島における歴史遺跡・名所の創作および保存・活用事業データベースの作成	基盤研究 (C)	和歌山大学
函館広域圏における戦略的デスティネーション・マネジメントに関する研究	基盤研究 (C)	北海道教育大学
日本のアニメ作品が海外の観光地形成に与えた影響に関する研究	基盤研究 (C)	北海道大学
ユーザ生成コンテンツからのコンテキスト抽出に基づく観光スポット推薦システム	若手研究 (A)	龍谷大学
アクアツーリズムの環境社会学的研究	若手研究 (B)	立命館大学
歴史観光都市の経済的被害と復興過程の定量的評価に関する研究	若手研究 (B)	立命館大学
観光客の動機・満足度・再訪意向の関係とリピーター創造に関する研究	若手研究 (B)	淑徳大学
国内外のマスターズスポーツ大会参加者のスポーツツーリスト行動に関する実証研究	若手研究 (B)	和歌山大学
震災遺構をめぐるケアツーリズムの社会学的研究	若手研究 (B)	埼玉大学
旅行プログエンタリを利用した旅行者の観光動機の分析および観光支援システムの構築	若手研究 (B)	広島経済大学
身体障害者の観光の現状と阻害要因に関する実証的研究	若手研究 (B)	立命館大学
創造的観光の概念整理と我が国への適用可能性に関する実証的研究	若手研究 (B)	金沢星稜大学
訪日中国人観光客を動かすメカニズム：インバウンド観光を通じた日中相互理解のために	若手研究 (B)	多摩大学
大規模災害復旧後の交流人口増加に向けた復興まちづくりに関するアクションリサーチ	若手研究 (B)	日本大学
エスニック・ツーリズムによる民族間関係の再編 —中国雲南省回族社会の事例から	若手研究 (B)	北海道大学
ポスト・バブル世代によるオーセンティック・ツーリズムの創成と周辺農山村の持続性	挑戦的萌芽研究	(一財) 農政調査委員会
ソーシャル・ツーリズムに係る多角的効果測定に基づく旅行支援の制度設計に関する研究	挑戦的萌芽研究	金沢星稜大学
縮小社会における“地域版MICE”モデルの考察	挑戦的萌芽研究	首都大学東京
「明治日本の産業革命遺産」のストーリーをめぐる軋轢現象に関する実態調査	挑戦的萌芽研究	九州国際大学
ツーリズムによる希望の創出：クリティカル、サステナブルツーリズムの理論と実践	挑戦的萌芽研究	和歌山大学
観光立国を目指した観光圏の経済効果の計測手法の開発	挑戦的萌芽研究	豊橋技術科学大学
近代中国マストツーリズムのメディア社会文化史的研究：友声旅行団と俵徳儲蓄会を中心に	挑戦的萌芽研究	北海道大学
観光地の歩行空間におけるSfMを用いたバリア情報抽出の可能性検証	研究活動スタート支援	日本大学
生物多様性に関わる国際認定制度を活用した地方自治体の戦略的定量的比較分析	国際共同研究加速基金	金沢大学

※研究の開始年度を2016年度とするもの。観光学に加えて他の分野も選択されているものも含む。
資料：科学研究費助成事業データベースより(公財)日本交通公社作成